

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 じゅびこるーむ		
○保護者評価実施期間	2025年 03月 01日		2025年 03月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 03月 01日		2025年 03月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 室内や課外などの活動内容が豊富 お家でできない製作活動 楽器の種類が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日違う活動を行うようにしている。 子どもたちそれぞれのブームやレベルに合わせて内容を決めている。 バスや電車の交通機関を利用したお出かけを定期的に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動がメインで取り入れているが、個々に合った支援が提供できるように、個別活動の時間も取り入れている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 手厚い支援 自由度高めな集団生活 	<ul style="list-style-type: none"> 資格を持っているだけでなく、保育園や児童発達支援などの経験を持った職員を配置している。 1対1でお子さまのやりたいことや色々な感情に向き合い寄り添えるように努めている お友達との関わりを増やしたいときには、職員の配置を一定時間減らし、お友達に目が向くように工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体のスキルアップのため、研修を受けている 統一された支援を行うために、支援会議を定期的に行い、記録を残し共有をしている。
3	家庭的な環境	<ul style="list-style-type: none"> 平屋の一軒家を使用している 庭があり、砂場の設置や畑を設置している 教室という雰囲気ではなく、お家に遊びに来た感じになるように元々のお家の雰囲気を残している。 扉を開けたり、閉めたりして部屋を区切って活動内容によって過ごしやすくしている 	<ul style="list-style-type: none"> お子さまが使うロッカーなどは構造化し、わかりやすくしていく お子さまが使う、玩具の収納場所や洗面所、トイレは使いやすいように工夫していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 部屋数が少ないため、お昼寝をしない子が思いっきり遊べる場所が外になってしまう 	<ul style="list-style-type: none"> お庭や近場の公園に行き、楽しく思いっきり遊べるように工夫している
2	送迎を行っていない	<ul style="list-style-type: none"> 送迎がないため、保護者への負担が出てしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 利用時間を長く設定していることや働いている保護者も多いため、利用時間の延長も相談の上配慮できるように努めている。
3	作業療法士などの専門職がない	<ul style="list-style-type: none"> 運動や言語などより専門的に必要な訓練が難しくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 系列店舗の作業療法士の職員に定期的に見てもらい、専門的にアドバイスをしてもらうことを、今後スタートしていく。